

学校法人滋慶学園 専門学校 東京ウェディングカレッジ
2019年度学校関係者評価委員会 結果報告書

日時 2019年6月21日（金）13:30～15:00 第2校舎3階バンケットルーム

●学校関係者評価委員

【委員氏名】

狩野 桜子	卒業生代表	アルタピスタガーデン所属
太田 妙子	保護者代表	
真板 竜太郎	高校関係者	木更津総合高等学校学校長
沼倉 英里	近隣関係者	行船管理有限会社
落合 歩	業界代表	リクルート ブライダル総研 所長
鳥居 遼一	業界代表	株式会社ポジティブドリームパーソンズ ゼネラルマネージャー

【学校側参加者】

土田 雅彦	専門学校東京ウェディングカレッジ 学校長
結城 健二	学校法人滋慶学園 執行役員
菅野 悠	専門学校東京ウェディングカレッジ 事務局長
丸山 敏夫	専門学校東京ウェディングカレッジ 教務部長

(学校関係者評価委員の評価および意見)

点検・評価項目	評価委員からの評価 優れている…5 適切…4 努力課題あり…3 改善が必要…2 全く出来ていない…1	評価委員よりの御意見
1 教育理念 目的・育成人材像	4.8	教育活動の実績目的だけでなく内容を重視し、かつ時代の流れに合わせた現生徒に対し、深く浸透しているか、習得されているかも考えてプログラムの構築を図る必要があると思う（太田）
2 学校運営	5.0	理念に沿った事業計画を立て、学校運営を進めていると感じている（鳥居） 担当部署を中心に運営面がしっかりしている（落合）
3 教育活動	3.9	『規律・学ぶ意欲・気づきのある授業』が成り立って初めて『質の高い授業』と言えると思う。何事も土台であり、土台をしっかり作って、現在行われている教育方針・カリキュラムに取り組んで欲しいと思う（太田） 個々の資格取得に対する熱量が違うことは変えられないので、なかなか全員合格は難しい。資格取得対策に加えて、向上心の維持も必要（狩野） 合格率が高い資格が多い中、カラーコーディネーター検定の合格率が低くなってしまっているのが、もったいない。対策をしっかりして、合格率を高めてほしい。2年次の中だるみの話が出たが、生徒だけではなく

		講師にもきちんと意識付けをして、その状態を放置しないようにするべきだと思う（沼倉）
4 学修成果	3.7	離職率については、産業界とともに、重要な課題として引き続き取り組む必要がある（落合） 卒業生の状況まで把握しようとしてくれるのはありがたい（狩野）
5 学生支援	3.9	退学者数に関して、学習面と生活面の双方からの対策をしているものの、目標である退学者9名以内は達成できず、過去最高の12名となってしまったことは、今後考慮していくべき大きな課題である考えられる。しかしながら「JTSC」という法人全体規模の体制は有効に機能しているようで、多方面からの学生への支援が期待できる。就職等進路に関する支援体制も、事務的な指導ではなく、プロセスを重視した綿密な体制が組み立てられており、学生からも業界からも受験生からも信頼が得られていると思われる。学生生活全般に関するハード面ソフト面での充実は、通常の専門学校のレベルをはるかに超えており、教育業界全体で見習うべきものである（真板）
6 教育環境	4.0	設備や教材など、学生が学ぶ上で必要なものは、非常に充実していると感じる。なかなか突破口が見えないところかとは思いますが、企業との連携において、アルバイトとインターンシップの違いをどう出すか、どう学生に認識させるかが重要だと感じた（鳥居）
7 学生の募集と受け入れ	4.6	平成30年度入学生は29年度よりも増加したものの、入学定員140名の確保には至らなかった。特に国際ホテル科については、引き続き定員充足率100%を目指して大きな対策が必要であると思われる。とは言うものの広報活動としては、高等学校等へ適切かつわかりやすい情報を伝達しており、また特に費用面などの受験生が必要としている情報を学校案内パンフレットやホームページ上で適正に公開しており、高校生が安心して受験できる状態になっている（真板）
8 財務	5.0	今後も経営の効率化と教育的理念の適正なバランスを期待する（落合） 適切な収支予算を立て、学園本部とも連携した綿密なチェックも行われている。月単位での確認に基づいた見直しも随時おこなわれているとのことで、安定した財務状況が維持できると考えられる（真板）
9 法令等の遵守	4.5	時代にあった課題だと思う（SNSについて）今のウェディング業界としても吉とも凶とも出るSNSの情報量を今の内から見ていくものはいいことだと思う（狩野） 法令等の遵守については、コンプライアンスセンターといった専門の部署や係を設けており、適切に行われている。情報公開についても適切に行われている。学生に対する個人情報保護やSNS等に関わるネットリテラシーの教育は、現代の社会的な課題として、今後も積極的に取り組むべきものである（真板）
10 社会貢献	4.4	現代では国際化というものは避けて通れない。まずALTの講師の方や様々な分野で活躍される外国人講師の方などを受け入れて体制作りを試みるのはいかがか？（太田）

(学校関係者評価の活用について)

本校の教育システムについては各評価委員から概ね高い評価を得ているが、定量的な目標(退学者数・就職希望者数)の未達から、運用体制の課題について説明させていただいた。その中で、現場実習(インターンシップ)をはじめとした産業界との連携、就職活動後の2年次の学習動機づけについては多くの意見を頂き、本校としても下記の対応を決定・計画・実行している。

2年次の学習動機づけおよび、学習態度の改善については、2学年担任が主導し、授業改善提案を2年次全学生から募り、個別面談と対策の回答を実施。授業の見回り指導の一部実施、教務部長による非常勤講師の面談については7月1週目から実行している。

現場実習(インターンシップ)をはじめとした産業界との連携については、9月より始まる現場実習の実習先訪問の体制強化を計画した。業界への訪問回数・頻度が実質的に上がるため、よりタイムリーな状況把握と業界からの学生情報収集ができるようになり、ひいては業界からの信頼強化につながると考えている。

(次回日程)

2020年6月中に実施

以上